

学習活動

自立活動「質問の仕方を覚えよう」

項目:人間関係の形成、心理的な安定、コミュニケーション

タブレット PC のアプリを操作しながら「～ですか」「～しますか」等の質問の仕方を学び、周囲への働きかけ方を身につける。知りたいことを質問し、回答を得ることで気持ちを落ち着かせるための学習。

活用の目的

○シンボルを並べ替えて文を完成させる iPad のアプリ「絵カードコミュニケーション」を使用し、視覚情報の記憶を得意とする生徒が、質問を身につけやすいようにする。

活用の実際と工夫

- 課題となる話し方(間違えて覚えている疑問文)を把握する。
- 2～3のシンボルを繋げると、正しい質問が完成するようにシンボルを新設する。
- タップすると担任の声で読み上げるように、音声を録音しておく。
- 文の組立てでヒントとなるように、補助教材を用意する。(資料参照)



iPad 用アプリケーション「絵カードコミュニケーション」  
本来は「りんご」「ください」のようにシンボルをつなぎ合わせ、タップすることで音声を表出する VOCA の役割を果たすアプリである。

シンボルは必要なものを増やすことができる。ソフトバンクモバイル貸与の iPad にはカメラが付いていないため、web からイラストや写真をコピーして使用した。カメラ付きであればより具体的なシンボルを作ることができる。下の緑バー内にシンボルを並び替える。音声ボタンを押すと、シンボルを繋げて読み上げてくれる。

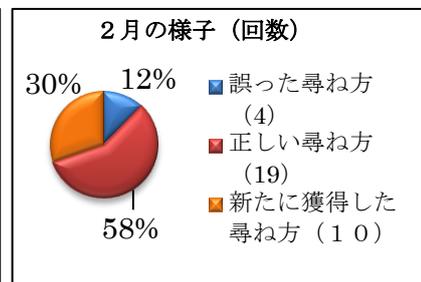
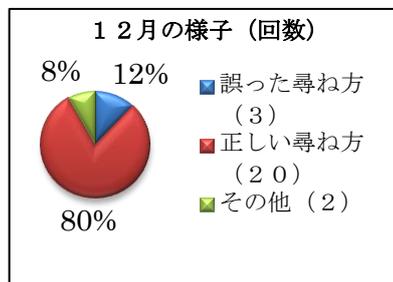


(左) 補助教材  
(右) 正しく並び替えたシンボル。疑問詞は一つのページにまとめてある。「～ですか」「～か」という表現であることに気付かせるねらいがある。



自立活動の時間の約15分程度取り組んだ。並べて読み上げボタンを押した後、教師から「合っているね。」「違っていいよ。」と評価を受ける。学習したことは、そのまま生活場面で生かそうとする様子が見られた。

誤った尋ね方	獲得した正しい尋ね方
「CD。」「CDは。」 「〇〇くん、CD。」	「CDを聴きますか。」 「〇〇くんは、CDを聴きますか。」 「CDを消してもいいですか。」
「掃除の先生。」 「生単の先生。」 「お弁当の先生。」	「掃除の先生は誰ですか。」 「生単の先生は誰ですか。」 「お弁当の先生は誰ですか。」
「あと。」	「あと何回ですか。」「腹筋はあと何回ですか。」
「トマトキッズ（学級通信）はまだだつて。」	「トマトキッズはいつですか。」



質問の仕方の変化についての資料

8月～2月の授業の中で、大きく変化したことが分かる。自立活動であっても、「学習成果があった」と説明するためのエビデンス（根拠）は大切にしたい。

活用の効果 ○効果 ●課題

- iPadの操作をすぐに覚えたため、一人で取り組むことができる教材であった。
- 児童にとって関心の高い「イラスト」「写真」「教師の声」が学習への意欲につながった。
- 国語の授業でも同じように使用し、文の成り立ちを学習できる教材だと感じた。
- 本来は異なる使い方をする本アプリであるが、児童生徒に合わせて柔軟に使うことができた。視覚的な学習を取り入れたことで理解が進み、その後は児童の力として定着している。
- シンボルを横に並べる使用であるが、縦に並べられるようだと国語の授業には適している。
- カメラ機能のないモデルだと、シンボルの用意に時間がかかる。